



自己肯定感を高める

副校長 入部 和也

立春を迎えますがまだ寒さ厳しき日が続いています。特に先週は大寒波がすっぽりと日本を覆い、全国各地大雪の様子がニュースとなりました。早い春の訪れが期待されます。

このところ、いろいろなアンケート結果から子どもの自己肯定感の低下が窺われます。自己肯定感は簡潔にいうと、「自分はどんなときもありのまま大丈夫」という自分への信頼を表しています。自己肯定感が低いことは、子どもにとっての大きな課題です。自分を磨き、絶えず向上心をもって成長し、そのことで自己を確立していくためには、自己肯定感を高めていく必要があります。

ではなぜ子どもたちの自己肯定感が低下しているのでしょうか。自分に対する自信や自己を肯定する感情は体験活動と相関関係があると言われます。授業や学校生活の中で、自分が主体となってあらゆる事柄に向かう体験、また自然体験や交流体験、社会体験などが豊富な子供は自己肯定感が高くなります。反対に常に人任せであったり、集団活動や、異年齢で遊んだりする機会が少ない子どもは、他者から認められたり、頼りにされたりすることが少なくなっている分、自己肯定感が低いのかもかもしれません。特に、汗を流して働く、生産する体験や家庭、地域で役割を果たす体験、人や社会に貢献する体験の不足は、子どもがほめられたり、感謝されたりする経験の減少につながっていて、自己肯定感が低下する要因になっています。

本校でも例えば、たてわり活動や幼稚園・保育園との交流活動の際、立派なリーダーとしてグループをまとめたり、下級生に思いやりのある行動ができたりする子がいます。一方、自分に自信をもてない子どもは他の人にも批判的で、攻撃的になりがちです。その結果よい友達関係がつかれなくなります。

この様に自己肯定感良好な人間関係の中で認められたり、頼りにされたりする経験を通して育つものです。ただし、注意が必要なのはすべてお膳立てをした体験活動を実施することは、問題解決の達成感や自力解決の満足感を味わうことにはつながらないということです。大人が子供を放任するのではなく、できる限り自分の力で手立てを考えさせ、失敗体験から学ばせるという意識をもつことも大切なのです。

私達も、ほめて伸ばすという観点からほめ方を工夫したり、認め、ほめられる機会や場の設定を広げていく必要を感じています。さらに、子どもたちとの信頼関係をつくるために日々努めていかなければなりません。そして皆さんと共に子どもたちに自己肯定感を高める支援を続けていきたいと思っております。ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。